



春 江 だ よ り

11 月 号

令和6年10月31日(木)

## 実現する力

副校長 加藤 勇祐

10月も終わりを迎え、ようやく朝晩に上着が必要なほど肌寒い気候になりました。インフルエンザやマイコプラズマ肺炎により体調を崩す子供たちも見られます。2学期後半も展覧会をはじめ多くの行事がありますので、体調管理に十分に気を付けさせたいと思います。ご家庭でもご協力をよろしくお願いします。

さて、現在アメリカメジャーリーグでは、ロサンゼルスドジャースとニューヨークヤンキースのワールドシリーズが行われています。10月28日時点でドジャースが2勝をあげ、次戦はヤンキースのホーム、ニューヨークに戦いの場を移すこととなります。

ドジャースと言えば、やはり注目は大谷翔平選手です。今年は大谷選手をテレビ等で観なかった日は1日もないくらい、目ざましい活躍でした。中でもフィフティ・フィフティ（50本塁打・50盗塁）というメジャーリーグ史上、誰も成しえたことのない記録を達成したことは大きく報道され、同じ日本人として誇らしく感じました。しかし記録以上に私が驚きを感じているのは、大谷選手の「実現する力」です。

大谷選手は高校時代から曼荼羅チャートに自身の目標を掲げ、その実現に向けて何をすべきなのか具体的に記しています。その曼荼羅チャートはテレビ等でよく紹介されていますが、「ドラフト1位指名」や「スピード160キロ」、「人間性の向上」等、目標としてあげたことをことごとく実現しています。また2023年WBCでは、決勝戦で強豪国アメリカと対戦し、「憧れていたアメリカを越えることはできない」と仲間を鼓舞し、優勝を勝ち取り日本中を沸かせました。今のチームに移籍したのも、「ワールドチャンピオンになるため」とはっきり明言しています。目標としているワールドチャンピオンはもう手の届くところに迫っています。どうして彼の発した言葉の多くは実現できるのでしょうか。そこには、もちろん生まれもった才能もあるでしょう。しかしその理由は、常に目的意識をもち、実現するための努力を惜しまず続けているからではないでしょうか。きっとそれは、常人には想像もできない程の努力なのだと思います。今年のキャンプで、肘を手術して投手としてボールを投げられなかった大谷選手は体に器具を付け、何度もダッシュする姿が報道されていました。今思えば盗塁を増やすことを目標にし、その実現のために努力していた姿だったのかもしれない。そう考えると59の盗塁も必然だったと感じます。

私たちは大谷選手のようになることは難しいですが、大谷選手の姿から多くを学ぶことはできると思います。果たして大谷選手はワールドチャンピオンを獲得できるのか、結果を楽しみにしたいです。